

## チェルノブイリ被災者の慈善市民団体「ゼムリャキ」の活動

タマーラ・レオニードヴナ・クラシツカヤ

竹内高明 訳

チェルノブイリ原発は、ウクライナで最初の原子力発電所でした。その名は、その建設が始まった場所の近くにある町にちなんでいます。チェルノブイリは古い町で、町の名前は、ヨモギの一種を意味するものです。この地方の尽きることのない自然の豊かさが、原発職員たちの町を建設するためにやってきた、熱意あふれる人々のエネルギーと結びつきました。1970年2月4日、チェルノブイリ原発から1km離れたところで町の建設が始まり、町は、そのそばを流れているプリピャチ川にちなんで名付けられました。市民の平均年齢は26歳でした。町は、独特の建築スタイルと、建設のすみやかさなどで、見る者を喜ばせました。私たちは仲のよい家族のようにこの町で暮らし、緑と花にうもれた美しい町を愛していました。



ゼムリャキのリーダー・クラシツカヤさん、2006年9月

1986年4月26日は、52,000人の市民にとって悲劇の日となりました。チェルノブイリ原発事故は、科学技術に起因する、世界最大の生態学的惨事とされています。4号炉の爆発は、5,000万キュリーに及ぶ、環境への大量の放射性物質放出を伴いました。そのため放射線による被害を受けた人は、310万人に達しています。[訳注：ウクライナ国内の被災者数]

4月27日、プリピャチの市民たちは避難させられ、のちには原発から30kmの圏内にある村々の住民も避難することになりました。事故の結果、繁栄していたこの地方は死の領域と化し、人々は運命のまにまに世界中へと離散していきました。人生の流れは断ち切れ、すべてをゼロから始めなければなりません。家も、着るものも、友人も失った状態で。その時に体験したストレスは、避難民の精神状態と健康に、長期にわたる影響を与えました。プリピャチの文化会館の文書と記録は、キエフのヴァトゥチンスキー地区[訳注：現デスニャンスキー地区]に移されました。この地区は、チェルノブイリ被災者や元プリピャチ市民が最も集中して住んでいるところです。ここで、集会、サークル活動、才能ある元プリピャチ市民のコンサートを開催するなどして、プリピャチの文化会館の活動を再開するという決定が下されました。このようにして、我々元プリピャチ市民の団体である「ゼムリャキ(同郷人たち)」が生まれたのです。開かれる集会には、各地からかつての同郷人たちがやってきました。最初に課せられた課題は、ちりぢりになってしまった知人、同僚、隣人、親戚などの居所を問い合わせることでした。また、精神的なサポートを行うことが、初期において最も重要かつ必須の活動でした。



ゼムリャキ事務所の壁に掛けてあるシンボルマークと織物

団体が発足したキエフ市のヴァトウチンスキー地区には、当初、プリピャチ市・チェルノブイリ市・30km 圏内の村々から避難させられた4万人以上の人たちが住んでいました。団体が支援の対象としているのは、すべての避難民、事故処理作業員、障害者、未亡人、孤児、子だくさんの家族です。これらすべての人々には、「チェルノブイリ被災者」という共通の烙印が押されています。当団体の設立後、これまでに、精神面のサポート、健康増進、社会的・経済的な支援を目的とする、数多くの多様な慈善行事やキャンペーンが行われてきました。

「ゼムリャキ」では、被災者たちの手で、プリピャチ市、チェルノブイリ市、チェルノブイリ原発事故とその影響についての常設及び臨時の展示が行われています。絵を描く被災者の作品、また刺繍や木・粘土の細工、貼り絵など、民芸品の作者たちのすばらしい作品の個展も行っています。知識や技能を身につけたい人たちや、自分の好きなことをやりたい人たちのために、大人と子どものためのサークルや教室の活動もあります。子どもたちのためには、プレゼント、お茶やお菓子、サークル活動をしている子どもたちのコンサート、ダンス、劇などを準備してさまざまな祝日を祝います。子どもたちは、市の催しや祝日の行事などにも参加しています。詩人、作家、画家、シンガー・ソング・ライターたちとの座談会や、彼らの作品のプレゼンテーションも行われます。4月26日にあわせて一連の行事を企画し、他の団体や施設などと合同で、大きなホールでの会合、チャリティー・キャンペーン、タベの集いなどを開催します。1998年から、私たちは「地球を救おう」という例年の国際キャンペーンを主催していますが、各国のさまざまな団体がこれに賛同しており、インターネットでも情報が流されています。新聞、ラジオ、TVで活動報告もしています。私たちの団体とメンバーについて、多くの出版物で取り上げられています。また、子どもたちのためにもプログラムがあります。地区内の学校では、毎年4月に、作文・詩と絵のコンクールがあり、4月26日に選考が行われ、優秀者は表彰されます。

時が経つにつれ、被災者たちの健康が悪化しており、また団体のメンバーたちの多くが障害者になっているため、医療プログラムに主な配慮が向けられています。

1. 毎年、日本の「ジュノーの会」によって、甲状腺の検診が行われています。
2. 日本の医師の方々によって、各種のコンサルテーションが行われています。
3. 必要な人に、医薬品や医療機器が提供されています。
4. 民間療法の講演や懇談会が組織されています。
5. 新しい薬品やサプリメント、自然食品のプレゼンテーションが行われています。

2005年、私たちは日本国外務省の支援プログラムに申請をし、提供された資金によって以下のものが購入されました。1)心臓血管強化トレーニング・マシン、2)脊椎矯正ボード、3)マッサージ台、4)マッサージ台付属ついで、5)火災警報装置、6)自動車。現在、「健康回復」チームが組織され、被災者たちは治療を受け健康を増進させることができるようになったのです。

また近年、経済的問題のため貧窮に追い込まれている人たちのために「SOS」プログラムが立ち上げられました。人々は、自分たちの問題を訴えてきます。不可欠の医薬品を買うお金がない、手術代がない、お金がなくて親族の葬式を出せない、などなど。当団体は、必要な支援をするための可能性を探り、スポンサーを捜すのです。

「チェルノブイリの犠牲者の子どもたち」というプログラムは、チェルノブイリ惨事の結果障害者となった子どもたちのためのものです。放射線は人体に作用してさまざまな病気を引き起こし、遺伝子の情報を変化させ、子孫に有害な影響を与えるということが、学者たちによって証明されています。すでに、先天性の障害を持った子どもたちが生まれてきています。チェルノブイリの被災児童は免疫力が低く、そのためよく病気にかかります。私たちの次世代となる子どもたちは、ビタミン剤や、汚染されていない地域での保養による健康の強化を必要としているのです。

当団体の活動はヴォランティア的なものであり、寄附金によってのみ存続しています。ウクライナが経済的に厳しい状況にある今、私たちは財政上の困難に苦しんでいます。公の機関からのサポートを得られないまま、私たちは、世界の人々に支援を求めざるを得ません。専従スタッフはわずか2名で、その2名もわずかな給与を得ているだけです。他の20名のスタッフはヴォランティアで、そのことも活動の質に影響します。



ゼムリヤキ訪問の記念撮影

私たちの住んでいる地区には、現在 22,146 名の移住者がおり、そればかりでなく、キエフ市のいたるところから人々が支援を求めてきます。

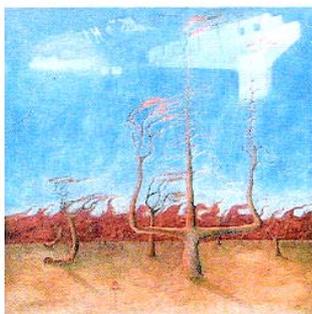
それでも、「ゼムリャキ」の中心メンバーたちは楽観主義者ですし、私たちは人々を助け、よりよい将来への希望を与えようと努力しています。

## Совершите благородный вклад, поддержите своих «Земляков»

Деятельность нашей организации осуществляется на благотворительной основе и существует только на благотворительные пожертвования. Мы будем очень рады любой Вашей помощи!

Просим перечислять Ваши пожертвования на счет нашей организации:

Р\р № 260093010308 в Деснянском отделении  
№ 8451 Ощадбанка Украины г. Киева  
МФО № 320230, код № 24075793



*Рыжий Лес, Виктор Петров*



### Общественная Организация Чернобыльцев «Земляки»

Адрес: пр. Маяковского 7-в, Киев,  
Украина 02225  
Тел. + (380 44) 534-43-32  
Факс +(380 44) 547-72-79  
Электронная почта:  
zemlyaki\_org@mail.ru

## Общественная организация чернобыльцев "Земляки"



### Наша миссия:

*Морально-психологическая  
медицинская и  
гуманитарная помощь  
потерпевшим от  
Чернобыльской  
катастрофы 26 апреля 1986  
года*

